

Application Discovery and Delivery Intelligence: 概要

自動アプリケーション検出および解析を通じたソフトウェア品質の改善



大規模組織では、一般的にコーディングの標準が低いこと、アプリケーション知識の低下、およびアプリケーションの複雑性の増大などに関連するアプリケーション・ソフトウェア品質の問題のために、アプリケーション保守に IT 予算の大部分を使わざるをえません。

アプリケーションインベントリや構造情報の詳細が欠如しているために、IT 管理部門が持つ、これらのソフトウェアの品質問題が、経費、リソースそしてサービスにどのような影響を与えるかに対する認識が限定される可能性があります。

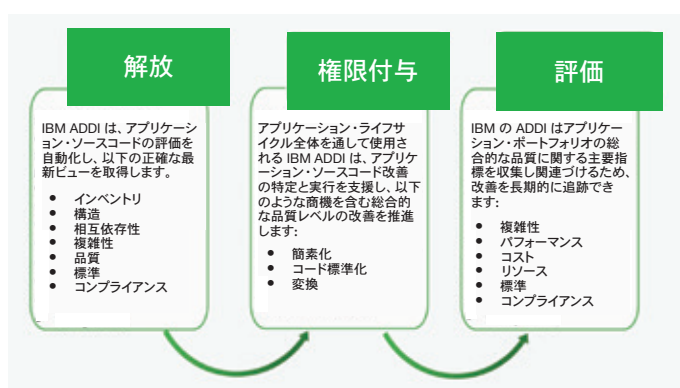


図 1: IBM ADDI のソフトウェア品質管理のための 3 ステップ・アプローチ

ソフトウェア品質管理プロセスとツールの制度化を達成するために IT 組織は、わかりやすく一貫性のあるアプローチを各ステップを支える同一のツール・セットを用いて適用し、インベントリ、構造的品質、そして長期にわたる改善について「唯一の真実」を提供する必要があります。ADDI の 3 ステップアプローチでは、最新のものではない、または品質標準を開発者が適用するには十分に詳細な情報を提供しないことが多い設計情報の主観的な評価ではなく、実際のコード・コンポーネントの客観的な分析を基にして行われる必要があります。

この解析を活用して、ベースラインを確立し、アプリケーション変更の影響を評価し、アプリケーションのアーキテクチャと保全性を積極的に改善することで、開発部門が納品するたびに品質が改善されます。

アプリケーション納品を明確に規定されたマトリクスと対比して評価することにより、マネージャーはソフトウェア品質の改善が達成され、組織に目に見える価値を貢献していることを確認できます。

アプリケーション保守予算が削減された状態が長年続く中、多くの組織は、自動化されたアプリケーション解析とレポート・ツールを使用することによって、ソフトウェア品質を改善でき、手が回っていなかったアプリケーション保守と改善プロジェクトに着手できることに気がついています。

「IBM の Application Discovery and Delivery Intelligence を使用することにより、弊社のアプリケーション管理と保守を大幅に改善できました。トランザクションのコントロールとデータ・フロー解析に以前は 4 日間かかっていましたが、ADDI を使用することによって今では数分で完了できます。」

– 大手保険会社のチーフアーキテクト

Application Discovery and Delivery Intelligence について

ADDI は、アプリケーション・ライフサイクルの最初から最後にいたるまで、アプリケーションの検出、解析、レポートを自動化します。開発者は、社内開発者、外部開発者かにかかわらず、アプリケーション変更の与える潜在的な影響を解析する必要があり、この作業には、ときに、これらの変更にかかる時間の大部分を費やす必要があります。これは組織にとって大きなコストになります。これに加え、解析結果は、異なるアプローチ、方式、能力のために、多くの場合、不完全で一貫性がなく、不正確です。ADDI はこの解析を自動化し、コスト削減、品質改善、将来の IT 予算の優先順位付けして、お客様が目に見えるビジネス・バリューを提供できるよう手助けします。

ADDI コア・テクノロジー

ADDI は、図に示されているように、アプリケーション・ランドスケープの各レイヤーの最新情報を動的に提供します。

ADDI コア・テクノロジーは、エンタープライズ・アプリケーションおよびアーキテクチャ情報を収集、処理、結果をオープンなリレーショナル・データベース・リポジトリに保存するコンパイラとエージェントの上に構築されています。収集された情報は、エンタープライズ・アプリケーションの理解、アーキテクチャの理解、および SOA 候補の識別で構成されています。これは、プラットフォームや環境を超えて (メインフレーム、Java など) ポートフォリオ、アプリケーションおよびコンポーネントレベルで動作し、プロセスおよびトランザクションの「エンドツーエンド」ビューを提供します。このリポジトリは、ADDI ツールに「唯一の真実」を提供します。

ADDI 階層マッピング

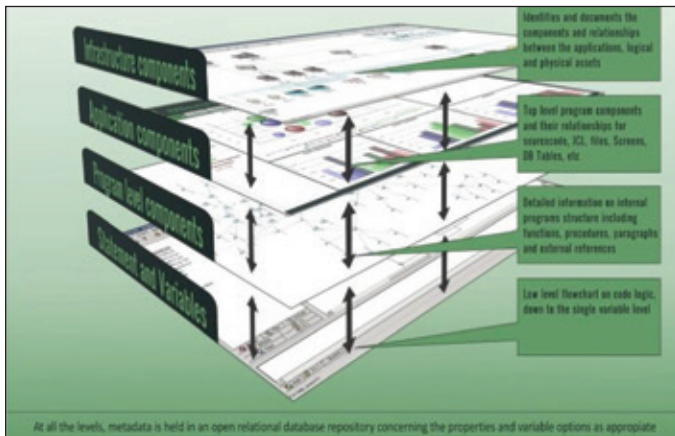


図 2: ADDI 階層は、オープンで連合されたアーキテクチャを基にマッピングされているため、情報は単一のリポジトリに保管され、すべての ADDI ツールは、他の関連情報と統合された顧客指向のレポートのために外部からもアクセスできるようになります。

ツールの ADDI スイート

解析

図 3 に示したように、ADDI の解析ツールは、アプリケーション・コンポーネント間の関係に関連づけ、内部構造、依存関係、およびデータ・フローをソース・コードと完全に同期させて可視化します。

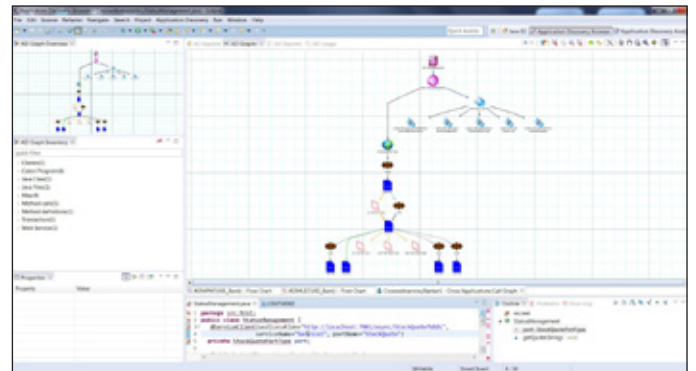


図 3: ADDI は、アプリケーション・コンポーネント間の関係を解析します

レポート

ADDI のレポートツールは、業界標準またはカスタマイズ可能なメトリクスを使ってアプリケーション・ポートフォリオの複数の側面を測定します。

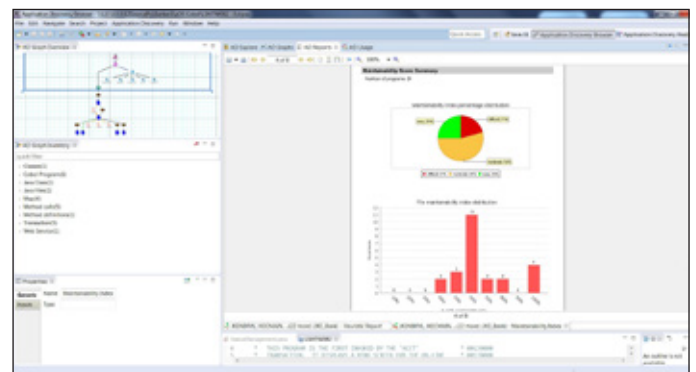


図 4: ADDI 健全性レポート

Application Delivery Intelligence

ADDI には、プロジェクトレベルのインベントリ、複雑性、ADDI リポジトリからの品質メトリクスを解析し、開発部門によるアプリケーション品質の改善と長期にわたる保全性の管理に貢献する IBM Application Delivery Intelligence が含まれています。

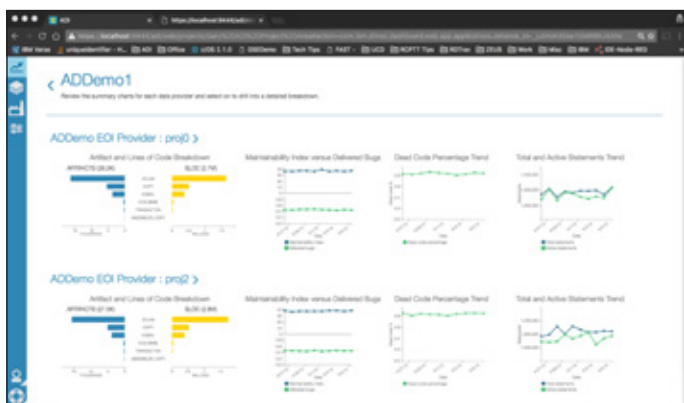


図 5: ADDI アプリケーション傾向分析

z Systems について

IBM z Systems および Enterprise DevOps ソリューションの詳細については、日本 IBM 営業担当員または IBM ビジネス・パートナーにお問い合わせいただくか、次の Web サイトをご覧ください。ibm.com/systems/z/ および ibm.com/systems/z/solutions/enterprise-devops/

また、IBM グローバル・ファイナンスは、ビジネス・ニーズに合った費用対効果の高い戦略的 IT ソリューションの調達を支援します。IBM グローバル・ファイナンスは、信用審査で承認されたお客様のために、IT 融資ソリューションをビジネス要件に合わせてカスタマイズし、効果的なキャッシュ管理を可能にして総所有コストを改善します。IBM グローバル・ファイナンスは、重要な IT 投資資金を調達しビジネスを前進させる上で、スマートな選択となります。詳細については、次の Web ページをご覧ください：ibm.com/financing



© Copyright IBM Corporation 2017

IBM Corporation
Software Group
Route 100
Somers, NY 10589

Produced in the United States of America
November 2016

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、および EZsource は、世界の多く国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、「著作権と商標情報」ibm.com/legal/copytrade.shtml でご覧いただけます。

Java およびすべての Java 関連の商標とロゴは、Oracle やその関連会社の商標または登録商標です。

本資料は最初の発行日の時点の内容であり、予告なしに変更される場合があります。本資料に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、プログラム、またはサービスについては、日本 IBM の営業担当員にお問い合わせください。

本資料の情報は「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性に対する保証、および非侵害の保証または条件を含め、いかなる明示的または黙示的な保証も行いません。

日本 IBM 製品は日本 IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されません。

適用されるすべての法令と規則の順守は、お客様の責任範囲とします。日本 IBM は、法律上の助言を提供することはいたしません。また日本 IBM のサービスまたは製品が、お客様においていかなる法を順守していることの裏付けとなることを表明し、保証するものでもありません。



リサイクルにご協力をお願いします